

平成 17 年 4 月 27 日	<b>病害虫発生予報</b> <b>5 月号</b>	茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会
---------------------	-------------------------------	------------------------

安心・安全な農作物は、農薬使用の記録と農薬使用基準の遵守から！  
みんなで茨城農業改革に取り組もう

< 目 次 >

<b>．今月の予報</b>	
<b>【注意すべき病害虫】</b>	
水稻：イネミスゾウムシ	1
小麦：赤かび病	1
ナシ：黒星病，アブラムシ類	2
促成キュウリ：褐斑病	3
促成ピーマン・促成トマト：灰色かび病	3
促成・半促成ピーマン：ヒラズハナアザミウマ	4
<b>【その他の病害虫】</b>	5
水稻，ナシ，カキ，メロン，促成キュウリ，スイカ	
<b>．病害虫ミニ情報</b>	
ナシに寄生するアブラムシ類の薬剤に対する感受性と防除について	6
農薬登録速報(3月)の概要	7
<b>．病害虫資料室</b>	
今月号の病害虫から	8
<b>．今月の気象予報</b>	
9	
<b>．テレホンサービス</b>	
9	
普通作物	029(226)5321
園芸作物	029(226)6131
<p>本文に記載された農薬の登録内容は、平成 17 年 4 月 27 日現在のものです。 農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用基準、注意事項等を確認してください。</p>	
<p>詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。 茨城県病害虫防除所   Tel :029-227-2445 予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。 ホームページアドレス <a href="http://www.jpjn.ne.jp/ibaraki/">http://www.jpjn.ne.jp/ibaraki/</a></p>	

・今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. イネミズゾウムシ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並～やや遅い	-	県下全域

[予報の根拠]

4月25日現在、気温から予想したイネミズゾウムシの活動開始時期は平年並～やや遅く、水田での発生時期も平年並～やや遅いと予想される(表1)。

水田への侵入時期が早ければ、イネが小さいうちから食害されるため、食害量は多くなる。

表1 本田での生息密度がピークに達する時期のめやす(4月25日現在)

予想地点	本年	平年
水戸	6/1	5/30
土浦	5/26	5/25
龍ヶ崎	5/26	5/24
鉾田	6/2	5/31
下館	5/29	5/26

イネミズゾウムシの発育に有効な気温の積算値より予想した。

水田の立地条件、イネの栽培条件により発生時期は前後する。

[防除上注意すべき事項]

例年発生が多い水田では育苗箱施薬を行う。(病害虫発生予報4月号ミニ情報参照)とくに、越冬場所となる山林等に接した水田では発生が多い。

10株あたり8頭以上の成虫が認められた場合に本田防除を実施する。本田防除は5月中旬から6月上旬頃までに行う。育苗箱施薬をしなかった水田では発生に注意する。

本田防除に使用できる主な薬剤としては、MR.ジョーカー粒剤、トレボン粒剤、トレボン乳剤がある。薬剤の使用に当たっては、水田から用水が流れ出さないよう、畦畔や水尻を点検し、水のかけ流しはしない。

苗の活着が悪い水田では成虫による葉の食害の他、幼虫による根の被害が大きくなる場合があるので注意する。

発生時期の予測は4月25日現在であるので、今後の情報に留意する。

(病害虫資料室 p.8参照)

小 麦

1. 赤かび病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	平年並	県下全域

(小麦赤かび病 続き)

[予報の根拠]

4月25日現在、県南地域の一部圃場で出穂期を迎えている。生育は、ほぼ平年並に推移していることから、発生時期は平年並と予想される。

気象予報によると、向こう1ヶ月の気温、降水量は、ともに平年並である。

[防除上注意すべき事項]

防除適期は、開花最盛期(出穂後7~10日)である。防除適期を逃すと効果が著しく低下するため、生育状況に十分注意し、薬剤散布を行う。(p.4参照)

第1回散布後、高温(20以上)で、曇雨天が続くようであれば、散布7~10日後に2回目の散布を行うと、さらに効果的である。

薬剤散布後、降雨が予想される場合は、粉剤よりも液剤、水和剤、乳剤、フロアブルなどの方がより高い効果が期待できる。

本病の発生は過湿な圃場に多いため、明きょ等の設置や点検を行い、排水対策に努める。

収穫時期が遅れると、被害粒から健全粒へと感染が広がる恐れがあるため、適期収穫に努める。

ナ シ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い~多い	県西地域
	平年並	県北・県南地域

[予報の根拠]

4月末現在、県西地域における発病果そう率は平年よりやや高く、発生地点率は高い。県北・県南地域における発病果そう率及び発生地点率は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

果そう基部病斑は、葉や果実への伝染源となるため、見つけ次第果そうごと除去し、地中深く埋める。

発病の多い圃場では、発病果そうを除去後、防除暦に基づき、落花期のスコア水和剤10(4,000倍)の散布を確実に実施する。

薬剤散布は、10a当たり300リットルを目安に丁寧に散布する。

薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

薬剤耐性菌の出現を回避するため、DMI(EBI)剤の年間使用回数は原則3回以内に抑える。

(4月25日発表の「病害虫情報No.2」参照)

2. アブラムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	少ない	県下全域

(ナシ アブラムシ類 続き)

[予報の根拠]

4月末現在，寄生新梢率及び発生地点率は平年より低い。

4月末現在，黄色水盤（岩間町）への飛来数は，平年よりやや少ない～少ない。

[防除上注意すべき事項]

発生密度の低いうちに防除を行う。

薬剤がまんべんなくかかるよう，十分な薬量を丁寧に散布する。

薬剤抵抗性アブラムシ類の出現を避けるため，殺虫効果の高い薬剤を防除適期に使用するなどして，少ない散布回数で高い効果が得られるようにする。

（病害虫ミニ情報 p.6 参照）

### 促成キュウリ

1. 褐斑病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	多い	県下全域

[予報の根拠]

4月末現在，発病葉率，発生地点率とも平年より高い。

これまでの調査から，4月の発生量が多い年は，5月の発生量も多い傾向が認められる。

[防除上注意すべき事項]

収穫終期は，発生が増加する傾向にあるため注意する。

罹病部は新たな伝染源となるため，病斑の多い葉は取り除き，ハウス外に持ち出して処分する。

ハウス内が多湿になると発生しやすいため，適切な換気に努める。

薬剤散布は，薬液が葉裏にもかかるよう十分な量で丁寧に行う。また，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，同系統薬剤の連続散布は行わない。

### 促成トマト・促成ピーマン

1. 灰色かび病

[予報内容]

作物名	発生時期	発生量	発生地域
促成ピーマン	-	多い	鹿行地域
促成トマト	-	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

4月末現在，発病株率は促成ピーマンで平年より高く，促成トマトでやや高い。

[防除上注意すべき事項]

ハウス内が多湿になると発生が助長されるので，換気，送風，暖房等によりハウス内の湿度を低く保つ。

罹病部は取り除き，ハウス外に持ち出して処分する。

薬剤散布は，薬液の乾きやすい晴れた日の午前中に行う。なお，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，同系統薬剤の連続散布は行わない。

促成・半促成ピーマン

1. ヒラズハナアザミウマ

[ 予報内容 ]

作物名	発生時期	発生量	発生地域
促成ピーマン	-	多い	鹿行地域
半促成ピーマン	-	やや多い	鹿行地域

[ 予報の根拠 ]

4月末現在，寄生花率は促成栽培で平年より高く，半促成栽培では平年並である。

発生地点率は，平年より高い。

今後，気温の上昇に伴い，ハウス内は発生を助長する温度条件が続く。

[ 防除上注意すべき事項 ]

アザミウマ類は増殖が速いので，発生の少ないうちに防除を徹底する。

薬剤散布は，薬液が葉裏や花にもかかるよう丁寧に行う。

薬剤抵抗性アザミウマ類の出現を防ぐため，同系統薬剤の連続散布は行わない。

麦類の赤かび病について

赤かび病は，麦の収量や品質に影響を及ぼすだけでなく，本病原菌が産出するかび毒（DON など）によって人畜に中毒症状を引き起こすことがあります。このため，農産物検査規格が改正され，平成 15 年産麦から食用麦の赤かび病被害粒の混入限度が 0.0%と厳しくなりました。高品質で安全・安心な麦づくりのため，表 1 を参考に赤かび病の防除を徹底してください。

表 1 赤かび病に登録のある主な薬剤

（平成 17 年 4 月 27 日現在）

薬剤名	希釈倍数・使用量	収穫前日数 -本剤の使用回数	対象作物	有効成分-有効成分の 総使用回数
トップジン M 粉剤	4kg/10a	14-2 <sup>注1)</sup>	麦類	チオファネートメチル-2 <sup>注1)</sup>
トップジン M 水和剤	1,000～1,500 倍	14-3 <sup>注1)</sup>	麦類	チオファネートメチル-3 <sup>注1)</sup>
ストロビーフロアブル	2,000～3,000 倍	14-3	麦類	クシロキシメチル-3
コロナフロアブル	400 倍	- -5	麦類	硫黄-5
ベルコート水和剤	1,000～2,000 倍	21-5 (出穂期以降は 2 回)	小麦	トリプロキシ-5 (出穂期以降は 2 回)
ベフラン液剤 25	1,000～2,000 倍	21-5 (出穂期以降は 2 回)	小麦	トリプロキシ-5 (出穂期以降は 2 回)
チルト乳剤 25	1,000～2,000 倍	3-5 (春期以降は 3 回)	小麦	プロピコナゾール-5 (根雪前は 2 回， 春期以降は 3 回)
	1,000～2,000 倍	21-1	大麦	プロピコナゾール-1

注 1) トップジン M 粉剤，トップジン M 水和剤は，共に同じ有効成分ですが，有効成分の総使用回数が異なっています。トップジン M を使用する際は，有効成分の総使用回数を，規制の厳しい 2 回までとしてください。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
水稲	イネドロオイムシ	-	前年多発した水田では、育苗箱施薬を行う(病害虫発生予報 4月号ミニ情報および今月号の病害虫資料室参照)。
	イネヒメハモグリバエ	-	移植が早い水田や、苗の活着が遅れるなどして、葉が水面に垂れるような水田では発生に注意する。
ナシ	ナシヒメシンクイ	発生量：平年並	4月末現在、フェロモントラップへの誘殺数は平年並である。
カキ	カキクダアザミウマ	発生量：平年並	4月末現在、発生を認めない。 新葉が巻き込む被害が認められたら、直ちに防除を行う。
メロン	うどんこ病	発生量：平年並	4月末現在、平年並の発生である。肥大終期に多発する場合がありますので、注意する。
	菌核病	発生量：平年並	4月末現在、平年並の発生である。
	ミカンキイロアザミウマ	発生量：平年並	4月末現在、平年並の発生である。トマト黄化えそウイルス(TSWV)を媒介するので、後作の抑制トマトへの伝播を防ぐため防除を行う。
促成キュウリ	べと病	発生量：平年並	4月末現在、平年並の発生である。
	うどんこ病	発生量：平年並	4月末現在、平年並の発生である。
	コナジラミ類	発生量：やや多い	4月末現在、平年よりやや多い発生である。
スイカ	つる枯病	発生量：平年並	4月末現在、平年並の発生である。株元の茎葉で発生を認めたら、直ちに防除を行う。
	炭そ病	発生量：平年並	4月末現在、平年並の発生である。
	ハダニ類	発生量：平年並	4月末現在、平年並の発生である。

## ナシに寄生するアブラムシ類の薬剤に対する感受性と防除について

ナシに寄生するアブラムシ類の防除では、殺虫効果の高い薬剤を使用することが重要です。そこで、アブラムシ類を対象に、平成17年版病害虫防除暦に採用しているアドマイヤー水和剤に対する感受性検定を行い、効果を確認しました。その結果と防除上の注意点についてお知らせします。

### 【検定方法】

平成16年6月16日に、県内5地点のナシ園からワタアブラムシまたはユキヤナギアブラムシの無翅成虫を採集し、検定に供試しました。検定処理は、虫体を薬液に10秒間漬ける虫体浸漬法によって行いました。この処理の後に、ナシ葉片を餌として与え、20℃で飼育し、24時間後の補正死虫率を求めました。

### 【結果】

アドマイヤー水和剤は、1,000倍希釈液、2,000倍希釈液ともに全地点で高い殺虫効果が認められました(表1)。

表1 アドマイヤー水和剤処理24時間後のアブラムシ類の補正死虫率(%)<sup>1)</sup>

希釈倍数	採集地点	筑西市 (旧下館市)	下妻市	八郷町A	八郷町B	常陸太田市
	種類	ユキヤナギアブラムシ	ワタアブラムシ	ワタアブラムシ	ワタアブラムシ	ワタアブラムシ
2,000		100	100	100	100	100
1,000		100	100	100	100	100

<sup>1)</sup> 補正死虫率(%) = {(対照区生存虫率 - 処理区生存虫率) / 対照区生存虫率} × 100

ナシのアブラムシ類に対するアドマイヤー水和剤の実用濃度は1,000~2,000倍。

### 【防除対策】

アブラムシ類は増殖のスピードが早いため、発生状況に注意し、発生初期に十分な防除を行うことが大切です。

アドマイヤー水和剤を散布した後も多くのアブラムシ類の生存が認められた場合は、散布時にかけむら等があった可能性が考えられます。薬剤散布の際は、徒長枝の先端等にも薬液がよくかかるように丁寧に行ってください。

また、アドマイヤー水和剤、ベストガード水溶剤、モスピラン水溶剤、バリアード顆粒水和剤及びダントツ水溶剤等のネオニコチノイド系剤は、薬剤感受性の低下を防ぐために、原則として合計で年間2回までの使用としてください。

アブラムシ類に対する殺虫効果の低下した薬剤を散布すると、アブラムシ類が十分に防除されず、その上薬剤に弱い天敵昆虫を殺してしまうため、結果的に薬剤を使う前より密度が増加することがあります。薬剤散布後は殺虫効果を確認し、殺虫効果の安定した薬剤を使用してください。

## 農薬登録速報(3月)の概要

農薬登録速報をお知らせします。

平成17年3月期間中(3/1~3/31)に新規・変更登録のあった農薬は、以下のとおりです。なお、薬剤名に続く( )内は、新規又は変更登録があった作物名あるいは作物の属する作物グループ名を意味し、グループ登録の意味ではありません。また、農薬の使用にあつては、必ずラベル等を確認してください。

### 殺虫剤・殺菌剤・殺虫殺菌剤

新規>ロディーWDG(果樹),パンチョTFジェット(野菜),コンフューザーMM(果樹)  
ベフドー水和剤(茶・野菜)

変更>ランマンフロアブル(野菜),アフーム乳剤(果樹・野菜),カルモック(野菜),カルホス乳剤(雑穀類・野菜),ファルコンフロアブル(茶・野菜・果樹),トリフミンジェット(花き),ベンレート水和剤(水稲・果樹・野菜・だいず・茶・きのこ類),トリフミン水和剤(果樹・野菜・麦類・花き),アリエッティ水和剤(野菜・果樹),ベルコートフロアブル(果樹・いも・だいず・茶・野菜),オルトラン水和剤(野菜・いも・てんさい・果樹),マッチ乳剤(いも・野菜・果樹),イモチエース粒剤(稲),バリダシン液剤5(稲・いも・果樹・野菜),アーデント水和剤(果樹・野菜・茶),オリゼメート粒剤(稲・野菜),スプレーオイル(果樹・茶・樹木・桑・野菜),サンヨール(野菜),ダースバン水和剤25(果樹),ホライズンドライフフロアブル(野菜),ロブラール水和剤(果樹・野菜・いも),ドロクロール(野菜),ロブラールくん煙剤(野菜),コロマイト乳剤(野菜),ジェイエース水溶剤(果樹・野菜・いも・てんさい),ファルコンフロアブル(野菜),オンリーワンフロアブル(果樹),スミレックスくん煙顆粒(野菜),オーシャイン水和剤(果樹),カネマイトフロアブル(果樹・野菜),フルピカフロアブル(野菜),サニパー(果樹),バスアミド微粒剤(野菜)

### 除草剤

変更>シンバー(果樹),アピロイーグルフロアブル(直播水稲),ゴーゴサン乳剤30(野菜)  
ハーモニー75DF水和剤(麦類),ハヤブサ(果樹・水田作物・水田作物(水田畦畔)・樹木等),バスタ液剤(果樹・野菜・水田作物・水田作物(水田畦畔)・畑作物(休耕田)・樹木等),クレマートU粒剤(野菜),デゾレートAZ粒剤(水稲(水稲刈取跡)),クサトールFP粒剤/クロレートS(水稲(水稲刈取跡))

### 植調剤

変更>マデックEW(果樹)

### 展着剤

変更>サーファクタントWK(水田作物・畑作物等)

### 失効農薬

アグロスラブサイドスミバッサ粉剤50DL,アグロスロディー乳剤,アグロスリゾレックス水和剤,アグロスアディオ乳剤,アグロスラブサイドスミチオン粉剤3DL,アグロスラブサイドスミチオントレボン粉剤DL,アグロスラブサイドスミバッサ粉剤,アグロスラブサイドスミチオン粉剤,大塚オルゼット液剤,アントラコール水和剤,ヤシマレルダンモンセレン粉剤DL,カミキリン,キタバッサ粒剤,特農レルダンモンセレン粉剤DL,石原エスレル,アグロスアグロスリン水和剤,キクノー,トモノコマユバチDS,トモノヒメコバチDI,ベネフィクス顆粒水和剤,トモノトリガード液剤,アサヒヒューム,クミアイモンセレントレボン粉剤DL,ラブサイドバリダシン粉剤DL,パダンナック粉剤2DL,ダイアジノンキタジンP粉剤DL,特農ディップバッサ乳剤,ヤマチャ印ボルドー液用生石灰,クミアイバイジットトレボン粉剤DL

農薬の登録失効は、同一成分の農薬においても販売メーカー毎になりますので、ご注意願います。



病害虫防除所ホームページ上で、図、写真をご覧ください。  
ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/ibaraki/>

## 【今月号の病害虫から】

### 水稻

#### イネミズゾウムシ

主な発生地域：県内全域（特に山林，雑草地に接した水田）

発生生態：成虫は日当たりの良い畦畔，土手，山林の腐葉土中等で越冬しており，4月上旬頃から活動を始め，イネ科雑草を摂食する。イネが移植されると次第に近くの水田に移動し，イネの葉を食害する。越冬場所に近い水田や，地域の中で早く移植された水田で発生が多い。卵はイネの水面下の葉鞘部に産み付けられ，ふ化した幼虫が土壌中に入り，根を食害する。幼虫の発生が多いと生育が遅れ，茎数が減少する。ひどいときには株絶えとなる。活着が悪い水田では被害が大きくなる。

防除のポイント：例年発生が多い場合は，育苗箱施薬を行う。育苗箱施薬をしていない水田では，成虫の生息密度が要防除水準（8頭/10株）となった場合に防除を行う。

図1：越冬後のイネミズゾウムシ成虫

図2：イネミズゾウムシ幼虫による被害田

図3：水田におけるイネミズゾウムシの発生消長と防除適期

#### イネドロオウムシ〔イネクビホソハムシ〕

主な発生地域：県内全域（特に山林，雑草地に接した水田）

発生生態：成虫で越冬する。越冬した成虫は5月上旬頃から6月にかけて水田へ飛来し，葉に産卵する。成虫，幼虫ともにイネの葉を食害するが，幼虫による加害が大きい。食害が多い場合には生育が遅れたり，茎数が減少したりする。幼虫は5月下旬頃から発生し始め，梅雨明けまで加害する。発生時期が低温で曇雨天が多い条件では発生期間が長引いて加害期間が長くなり，被害が大きくなる。

防除のポイント：常発地では育苗箱施薬を行う。幼虫の発生が多い場合は粉剤，乳剤による防除を行う。

図4：水田に侵入したイネドロオウムシ成虫

図5：イネドロオウムシ幼虫

図6：水田におけるイネドロオウムシの発生消長と防除適期

## ・ 今月の気象予報

### 関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 4月23日から5月22日)

気象庁(4月22日 発表)

< 向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	30	50	20
降水量	関東甲信全域	30	40	30
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

向こう1ヶ月の平均気温は平年並の可能性が大きく, その確率は50%です。

降水量は平年並の可能性が大きく, その確率は40%です。

日照時間は平年並の可能性が大きく, その確率は40%です。

< 1週目の予報 > 4月23日(土曜日)から4月29日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並

< 2週目の予報 > 4月30日(土曜日)から5月6日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並

< 3週目から4週目の予報 > 5月7日(土曜日)から5月20日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並

## ・ テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために, 病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

普通作物 029(226)5321

5月上旬 小麦の赤かび病対策について

中旬 麦類の病害対策について

下旬 水稻の生育初期に発生する病害虫の発生状況と防除対策について

6月上旬 水稻病害虫の防除対策について

園芸作物 029(226)6131

5月上旬 ナシ病害虫の発生状況と防除対策について

中旬 野菜病害虫の発生状況と防除対策について

下旬 果樹病害虫の発生状況と防除対策について

6月上旬 ナシ病害虫の発生状況と防除対策について